

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19 年 7 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	2277100968
法人名	医療法人社団 長啓会
事業所名	グループホーム 四葉の家
所在地 (電話番号)	静岡県浜松市北区根洗町207番地の3 (電話) 053-430-6500

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号		
訪問調査日	平成19年 5月 25日	評価確定日	平成 19 年 7 月 18 日

【情報提供票より】平成19年 5月 9日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 16 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24	常勤 18 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.6 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費13,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1500 円	

(4) 利用者の概要(5月1日)

利用者人数	25 名	男性	10 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	8 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	政本病院 鎌田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浜松市北部に位置し、ホーム玄関前には茶畑が広がり静かな落ち着きが感じられる。近隣には同法人の病院・老健が並んでいる。開設7年目に入り、理念の「ゆっくり 一緒に 楽しく」はホーム全体にゆきとどいている。ほとんどの家族から「職員の笑顔が一番良い。」とお褒めの言葉を頂いている。創立以来ホームと一緒に歩んできた館長の表情からもうかがえる。今年度の自己評価を職員全員で整え、「自分の家族だったら」を常に話し合い地域に根ざしたホームとして日々実践の中で取り組んで行きたいと更なるステップアップを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域への働きかけが弱いとの指摘があり、地域推進会議を多彩なメンバーで第1回開催を3月に実施している。ケアサービスの項目で食事についてのサポートは万全であるが、職員は家族の1員として同じ食事が摂られていない。又水分摂取量の把握・周知とも今後の取り組みに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価をみんなで実施したことにより、「一人ひとりの意識が高まり」自分の家族だったら」を常に話し合っていくことを目指している。今後の支援に結びつけて頂きたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>第1回地域推進会議は地域住民・市・老人会・民生委員・ホーム職員などのメンバーで開催されホームの評価報告をしている。今後その中で話し合いから意見を聞きだし、今までの理念を大切にしながら地域に根ざしたホームとしての理念を追加し、地域住民に親しまれるホームを目指している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の今後のレベル低下を想定した家族の不安をどのようにくみ取るか、今までの信頼関係の基盤を大切にしながら充分な話し合いを重ねて今後の支援、運営に反映していただきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>神社の祭りの参加・隣の畑での協同作業、そして計画している神社の草取りなど地域との連携を少しずつ深めていただきたい。</p>

2. 評価報告書（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり 楽しく 一緒に暮らす」の理念は7年目を迎えるホーム全体にとけ込んでいる。加えて地域密着型サービスの理念を地域推進会議で話し合いつくりあげる予定である。	○	すっかり根付いた今までの理念を基に地域密着型サービスとして地域の中でその人らしく生活することを支える具体的なイメージ、事業所独自の理念を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿って管理者、職員は常に話し合い実践出来るよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の神社のお祭りに参加している。	○	地域のお祭りに参加し、神社の草取りにも参加を計画している。お祭り・草取りを機会に地域の人々と交流を深めて頂きたい。
う					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行うことにより、個々の意欲向上に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3月に地域住民・市職員・ホーム利用者・館長等の多彩なメンバーにより第1回が開催され記録されている。	○	運営推進会議の意見を聞くことにより、地域との関わりが深くなり、更なるサービスの向上につなげ継続していくことを期待します。メンバーに地域の消防署の参加もおすすめしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度、市の介護相談員が訪問している。ボランティアの受け入れなどの情報収集を得て、サービスの向上に努めている。	○	介護相談員の活動記録をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時又必要に応じ電話連絡で報告している。金銭出納帳に領収書を添付して報告している。	○	面会時の家族とのコミュニケーションは満足していると、家族からはお褒めの言葉を沢山いただいている。ホーム便りの発行を加えることにより、家族とのきずなをより深められたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望は面会時に担当者が受け入れをしている。	○	ちょっとした不満・苦情は家族にとって出しにくい。今後利用者のレベル低下も想定して家族会などで充分に意見を出せる仕組みづくりを検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の健康上の理由からやむを得ず離職する場合や、法人としての異動が実施されている。職員が交代するときには、どのユニットでも利用者へのダメージを防ぐ為に「旅行に行っている」と伝えている。	○	認知症であっても、尊厳をもって対する姿勢が大切である。職員の異動については一様に「旅行に行った」という安易な伝え方ではなく、特別な場合をのぞいて、丁寧にその旨をつたえたと共に後任者の紹介や引継ぎを十分行うなど利用者・家族の不安を取り除く対応をお願いしたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の新入時研修・グループホーム協会の研修に参加している。	○	受講の順番・希望などで職員は外部研修に参加しているが参加資料を内部研修資料として職員みんなが受講できるよう、ホーム独自の研修体制づくりをお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険課・グループホーム協会の集り等で意見交換し、更なるサービスの向上へとつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者・家族共に見学して納得した上で利用している。ホームに馴染めるよう相談しながらすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立出来ていることは入居者が一人で行い職員は見守っている。一緒に過ごして入居者から学ぶこともあり支え合う関係を築いている。訪問当日、調査員の帰りを察した入居者が「お見送りをしていच्छゃい。」と職員に指示する場面が見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者との会話や家族とのコミュニケーションを大切にしており、その中から、希望、意向を聞きだし、日々の支援に役立てている。また、意思を言葉で表さない方は、表情や態度などを参考にして、職員でカンファレンスを開き話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族からの意見や要望を受け入れ、1回/月 かかりつけ医の受診も含めて、できる限り実現できるように作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、モニタリングし見直すようにしている。また入居者に変化のあった場合はその都度家族の意向も入れカンファレンスを行いそれに合った新しい計画を作成している。	○	定期的な見直しのされていない介護計画が一部見られた。安定して変化のない利用者の場合でも、本人や家族の意向や状況を確認すると共に、職員の気づき、ケアのアイデアを集めて、実状に即し、予防的に対応していくための、見直しを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊できる部屋も用意され、受け入れている。また、職員が利用者と一緒に、病院へ薬をもらいに出かけるなど、個々の状況に応じて臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度かかりつけ医に受診、または往診に来てもらっている。入居者の体調不良時もすぐに対応してくれている。協力医の他での受診が必要な場合、家族と協力して適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意思を尊重し、家族と共にかかりつけ医と相談し、方針を決めている。(ターミナルケアはこれまでやっていない)	○	今後のレベル低下を想定して家族と十分な話し合いを今後も続けられたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりの性格を把握していて、それぞれに合わせた会話をしたり対応をしている。食事介助もむやみに促したり、言葉をかけるのではなく、ゆったり見守る姿勢があり、目立たずさりげなく介護しており、プライドを傷つけないよう接していた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支援している。また、買い物に出かけたり、病院へ薬をもらいに行ったり、晩酌を楽しむなど、個別に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は法人施設から運ばれているが、ご飯や味噌汁などはホームで作っているし、日曜、祝日の献立は入居者の希望を聞いて作るなど前向きに取り組んでいる。また、準備や片付けなど、できる限り入居者の参加を促し活躍の場としている。職員はお弁当を持参している。	○	職員は入居者と同じテーブルを囲んで一緒に食事をとり雰囲気作りを大切にしている。今後はさらに「食」を通じたさまざまな取り組みを生かすためにも検討を重ねられたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調や希望にあわせ、毎日入浴でき、のれんをかけた「銭湯に行こう」など言葉をかけたり楽しく入浴ができるように支援している。職員の勤務体制上、午後2時から3時半ごろまでの昼風呂と決められている。	○	お風呂の時間帯が決められている。「昼間お風呂に入れて幸せ！」と言う入居者もいるが、夜間入浴で温まると安眠できたりするということもある。昼風呂が当たり前にならぬよう、季節・時間帯についての見直しを検討されるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、食事の下ごしらえ・片付け・食器拭き・モップ掛け・洗濯物干し・たたむなど、一人ひとりにあった役割をもっている。職員は、「ありがとう」など感謝の言葉をかけ、生活に張りを持ってもらえるよう支援している。歌集などもいつでも手に取れる場所に置いてあり、入居者は楽しんでいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴、散歩、買い物、外食、病院への薬もらいなど、気軽に外出しており、気晴らしを図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、出入り口、エレベーターは、夜間のみ施錠している。常に見守り、館内放送なども使い所在確認を徹認している。また出かけそうな時は、さりげなく声をかけたり、出かけた場合は、後からついて行くなど安全に気を配っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、火災や地震を想定し、全職員で入居者を含めて、避難訓練を実施し、緊急時に対応できるよう知識を身につけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせてロミンを使用したりお粥・刻み食・ミキサー食にするなど工夫をしている。チェック表に食事量を記入している。水分は一日1500CCを目安にしているが記録はない。	○	食事摂取量はチェック表に記録されているが、水分摂取量については、記録がない。食事の残食量とともに水分量についても記録し一日を通じて確保できているか確認し、職員が情報を共有できるように望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に明るくゆったりした空間があり、清潔感のある気持ちの良いホームである。特に、広くゆったりした玄関は、自然の光が差し込み季節の花や緑のものが栽培されていて、その椅子にゆったり座り、外を眺めているにこやかな表情の入居者が印象的だった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前に使用していた馴染みの品々である、たんす、コタツ、布団、ハンガー、じゅうたん、仏壇などが持ち込まれていた。また、家族の写真を飾ったりして、入居者が安心して過ごせる居室となっていた。		